

議会だより ふくしま

(題字: 福島商業高等学校 3年 笠井 紗羽さん)

第148号

令和7年12月1日発行
福島町議会



今号のポイント

- ✓ クマ被害、町の対応は(7月会議、9月会議)
- ✓ 町の“いま”と“これから”(一般質問)
- ✓ 決算から町の今を見る(9月会議)

ふくしま

3年 伊藤 遥陽さん

議会HP



意見質問
フォーム

こちらの二次
元バーコード
をご利用いた
だけません

2
ページ
4
ページ
7
ページ

ヒグマ対策に追加措置 地域商品券発行・事業者支援金給付

町議会定例会
9月会議

詳しい資料はこちら



定例会9月会議は9月16日に開会、議案15件、報告2件、認定7件、同意2件、発委2件を審議し、いずれも原案通り可決、同意し、追加日程として教育長の宣誓を行い、18日に休会しました。参画者は3名でした。

条例の改正

町の休日を定める条例の一 部改正

国や北海道の基準に合わせ、年末年始の休日を12月29日から1月3日とする改正。

町議会議員・町長の選挙における選挙運動の公費負担 条例の一部改正

国の法改正に伴い、選挙運動用ポスターの公営に要する経費の限度額を引き上げる改正。

水道事業給水条例の一部改正

国土交通省からの技術的助言により、災害など非常時に他の水道事業者が指定した給水装置工事による給水装置工事の実施を可能とするための改正。

計画の変更

第6次総合計画の変更

事業の追加により、計画の一部を変更。(新規2件・ナ

マコ稚仔放流事業、総合体育馆屋内消火栓設備改良事業、変更3件・地域経済緊急支援事業、認定こども園福島保育所改修事業、町営住宅長寿命化等事業。)

区分	金額
変更前	5,341,400
新規	48,700
変更	89,500
変更後	5,479,600

補正予算

一般会計補正予算(第5号)

● 老人福祉施設整備事業費
特別養護老人ホーム陽光園の介護用電動ベッド更新(20台)と、デイサービスセンターの浄化槽設備改修補助金追加。

840万円

施設維持管理費

保育所前駐車場の舗装工事費を追加。

4千900万円

熊等による被害対策費

熊出没対応等における交通規制用資材購入、電気牧柵・除草剤噴霧器・監視カメラ購入、緊急銃猟での損失に対する保険加入による追加。

377万6千円

事業の追加により、計画の一部を変更。(ウニ種苗育成センター改修事業)

● **ナマコ稚仔放流事業費**

福島漁港、白符漁港でナマコ育成礁を設置し、育成することで資源の維持拡大を図る。

595万円

● **地域経済緊急支援事業費**

物価高騰、7月のヒグマ事故により低迷している地域経済対策として地域商品券を発行する。（1人1万円）

3千593万7千円

● **町営住宅長寿命化等事業費**

丸山団地S60年棟の内装改修工事実施設計委託業務を追加。

400万円

● **一般会計補正予算（第6号）**

150万円
件10万円）
飲食・宿泊事業者に対し、支援金を交付する。（15件、1件）
ヒグマ警報発令による夜間外出自粛の影響を受けた町内外飲食・宿泊事業者に対し、支

単位：千円

会 計 名	補正額	補正後
一般会計（第5号）	218,191	4,877,621
一般会計（第6号）	1,500	4,879,121
国民健康保険特別会計（第2号）	23,286	689,782
介護保険特別会計（第2号）	28,105	549,295
後期高齢者医療特別会計（第2号）	5,830	87,406
国民健康保険診療所特別会計（第1号）	294	126,466
浄化槽事業会計（第1号）	89	41,717

議会提出議案

意見書

● 国土強靭化に資する社会資本整備等に関する意見書

● 安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める意見書

討
議

一般会計補正予算（第5号）の審議において、議会費の補正予算に対し、討議が要求され、議員間で討議が行われました。

動画はこち
ら



議会HPで配信や資料を見てみませんか？



議会HPへの
二次元バーコード

議会HPにて各会議の生配信や、過去の会議資料・映像をご覧いただけます。なお、議会だよりの二次元バーコードをスマホ等で読み取り、HPの関係ページをご覧いただくこともできます。

■ : <https://www.town.fukushima.hokkaido.jp/gikai/>
✉ : gikai@town.fukushima.hokkaido.jp
☎ : 0139-47-2215

一般質問



動画は
こちら



子育て

問

子ども誰でも通園制度の
受け入れ態勢は？

答

令和8年度の実施に向け、
受入体制を検討中

木村 隆議員

国は、育児負担の軽減と子どもの健やかな成長を支援するため、「子ども誰でも通園制度」を来年4月から施行しようとしています。

- ① この制度を来年4月から当町で開始する予定があるのでしょうか。
- ② 開始予定であるのなら、どのような受け入れ態勢を考えておりますか。
- ③ 利用時間や料金、障がいを持つ児童の受け入れはどのように考えておりますか。



【一般質問】町の色々な課題等について、議員が町長等に対して質問や提案をすることです。

鳴海町長

- ① 国の方針に沿い、令和8年度からの実施に向け準備を進めている。
- ② 現行体制を基本に、認定こども園の3歳未満児のクラスに空きがあれば受入。保育士の配置基準を満たさない場合は代替保育士の配置を検討している。
- ③ 月10時間・無料を想定、障がい児の受け入れは今後検討を進める。



動画は
こちら



生活
環境

問

ヒグマ緊急発砲
マニュアル整備と今後の対応は？

答

対応マニュアルを策定予定
今回の対策は継続

佐藤 孝男議員

クマ駆除対策の主体が自治体の判断に委ねられ、今後は市街地での猟銃使用は町長が判断ということになります。

- ① 早急に関係団体と会合を開き、マニュアルを作成し、共有する必要があると思うが、町長のお考えはいかがでしょうか。
- ② 今回と同様の対応を来年度以降も継続するのでしょうか。

※ 関係団体とは、警察、消防、ハンター、町職員、町内会など

鳴海町長

町では、出没多発時点から加害個体確保までの対応状況について検証を進めている。

- ① 検証を踏まえ、関係団体と連携を図りながら、マニュアルの策定を進める。
- ② 電気柵設置、緊急的な草刈り、ゴミ出しの注意喚起、防災無線を活用したヒグマの出没情報の周知を引き継ぎ実施する。



動画は
こちら



生活
環境

問

ヒグマ出没
警報や財政措置の対応は？

答

警報は道の基準
電気柵設置など財政措置を活用

熊野 茂夫議員

ヒグマ出没に対する対応の検証と、今後の対応策の基本的な考え方について、次の点をお答えください。

- ① 町独自の警報発令の選択肢は考えられなかったのか。今後は発令を検討しては。
- ② 市街地に侵入したヒグマを市町村の判断により猟銃で駆除できることとなるが、町長、職員の現体制で対応できるのか。組織体制構築の検討が必要ではないか。
- ③ 電気柵等の全町設置や定期的な除草に係る人件費などの財政的措置についてどう考えているか。



動画は
こちら



産業
・
教育

問

若者の地元定着
教育と雇用の連携強化は？

答

協議の場を設け、
現行施策を充実・継続

平沼 昌平議員

キャリア教育と地元企業との連携強化について提案したいと思います。

- ① 高校・町・企業による「地域キャリア教育推進協議会」などの設置を検討してみるべきではないか。
- ② 地元企業による職業講話・インターンシップの定期化
- ③ 雇用促進事業の周知強化と制度改善（定着支援を含む）
- ④ 若者定着に向けた包括的支援策（住宅支援、地域交流、Uターン促進等）を検討、或いは再考してみてはどうか。

鳴海町長

この度の事故は全国・全道的にもまれなケースであり、町では、庁舎内はもとより、北海道、道立総合研究機構と連携しながら検証を進める。

- ① ヒグマ警報は道が発令しており、町独自の判断で警報発令はできないと考えている。町独自の警報発令は考えていない。
- ② 新制度の推移を見ながら現行体制で対応、必要に応じ北海道ヒグマ緊急時専門人材派遣事業を活用する。
- ③ 鳥獣被害防止計画を策定している当町では、事業費の80%が財政措置されるため、必要に応じた対策を引き続き講じていく。

小野寺教育長

- ① 必要性を感じるが、まず関係者で話し合いの場を持ちたいと考えている。
- ② 現在も取組を進めており、他教科との関係から増やすことは難しいと考えているが、高校と十分協議し、内容の充実に向けて支援していく。

鳴海町長

- ③ 制度は一定の認知がされており、定着支援も安定した就労環境が確保されていると考えている。
- ④ 定住向け町有住宅等による住環境向上と併せて、引き続き、若者・子育て世帯を中心とした定住・移住対策を推進していきたいと考えている。

文書質問

〔文書質問とは、議会が開催されていない時でも議員が町に対して質問できる仕組みです。〕

問 今後のネズミ・熊等の対策は？ 藤山議員提出 (R7.8.8)

答 ネズミ：町としては対応予定なし、熊：現在の対策を継続（拡大予定なし）

質問内容

連日のように町内のネズミ、熊被害が報道されていたが、今後の対策をどのように進めるのか。

- ・熊による被害を防ぐための防護柵の延長・草刈り拡大など。
- ・ネズミ被害を防ぐための町としての対応。



草刈りと電気柵の設置を行ったニュータウンの一角

回答内容

熊対策

- ・三岳地区から月崎地区の山際1,120m、ニュータウンに530mの電気柵を設置。（降雪前まで継続）
- ・墓地公園等にも同様の対策を実施。町内8カ所に計1,270mの電気柵を設置。
- ・緊急対策として三岳地区・月崎地区の草刈りを実施し、約9haの緩衝帯を設置。

電気柵・緩衝帯としての草刈りは、緊急的に実施したもので、現時点での対策の拡大予定はない。

道と市町村が連携し、ヒグマ対策の総合的な制度・財政支援を国に要請することとしており、その状況を踏まえ、今後対応を検討していく。

ネズミ対策

ネズミ被害について、町民からの問い合わせなどは寄せられていないが、駆除は各事業所、各家庭において対応していただいている、町として特に対応予定はない。

問 役場にも冷房が必要では？ 藤山議員提出 (R7.8.8)

答 必要と考えているが費用負担大

質問内容

北海道でも年々温度が上昇している。この度の地震で多くの町民が役場に避難したと思う。優先順位があると思うが、避難所としての熱中症対策や仕事に支障をきたさない勤務環境を確保するためにも冷房設備が必要と感じる。役場利用者の快適性や健康、防災等の観点からも必要と思うので見解を伺う。

回答内容

役場庁舎については、高齢者等の来庁者への対応はもとより、行政事務の効率の観点からも重要と捉えており、津波などの災害時における避難所の機能を有していることから、冷房設備の整備は必要と考えている。

現在は、スポットクーラーや冷風機で対応していますが、恒久的な設備の導入については、多額の費用が見込まれることから、財源確保と整備方法等を含め、検討していく。

令和6年度 決算審査特別委員会

9月17日、18日の2日間にわたって令和6年度会計の決算審査特別委員会が行われ、一般会計のほか、4つの特別会計と2つの事業会計の計7会計、総額63億円の決算を認定しました。

一般会計の歳出額は45億4,562万円で、前年度に比べ17億2,717万円(27.5%)減となりました。歳入額は46億7,973万円で、前年度に比べ17億2,357万円(26.9%)減となりました。なお、財政調整基金の残高は13億907万円で、前年度に比べ3,964万円減となりました。

※金額は四捨五入表示。

※質疑・応答は、第6次総合計画のまちづくり項目の順番で要約し、抜粋を掲載しています。

いきたい。
員の採用も考えていない。た
だし消防署の中には免許を持
つ職員もあり、本人の強い意
志があれば町として支援して

あり後継育成が課題となつて
いる。職員に狩猟免許を取得
させることは業務や安全面か
ら難しく、現時点では専属職

員の採用も考えていない。た
だし消防署の中には免許を持
つ職員もあり、本人の強い意
志があれば町として支援して



1年ほど使いたい」との声が
ある。ただし将来的な利用は
減少が見込まれるため、教育
委員会や利用団体と協議しな
がら方向性を検討する。利用
がなくなれば、芝生化して子
どもたちの遊び場など広く使
える公園にすることも考えら
れる。

答

現在、町内のハ
ンターは実質3
4名で、高齢化も

(小鹿昭義議員)

以前の一般質問
で、町職員が狩猟
免許を取得するこ
とについて町長は否定的だつ
たが、その考えは今も変わつ
ていないのか。

問

（平沼昌平議員）

エゾシカ326頭
(町内115頭)、ヒグ
マ6頭(町内1頭)
を処理した。施設は24時間稼
働しており、点検や清掃を除
けば空き時間は少ないが、今
後の有効利用として雑海藻や
貝殻処理などの応用も検討し
ている。現時点では有害駆除
専用だが、将来的な活用方法
は研究課題としている。

答

現在も一部の利
用が続いている
団体からは「あと

新緑公園内ゲー
トボール場は、近
年利用が減ってい
るよう見える。今後の管理
や活用方法についてどう考
えているか。

(木村隆議員)

答

（木村隆議員）

● 産業を活性化し、地
域資源を活かすまち
づくり

● 有害駆除処理施
設について、令和
6年度の処理実績
や、施設の稼働率、さらに有
害駆除以外の活用の可能性に
ついて伺う。

● 有害鳥獣対策

● 次世代を育成し、つ
ながり、学び合うま
ちづくり

● 体育施設

問

● 有害駆除処理施
設について、令和
6年度の処理実績
や、施設の稼働率、さらに有
害駆除以外の活用の可能性に
ついて伺う。

● 次世代を育成し、つ
ながり、学び合うま
ちづくり

● 体育施設

問

パークゴルフ場の芝管理が不十分で傷みが進んでいます。令和7年度に芝張り替えを行うとのことだが、時期的に今が適切ではないか。

(佐藤孝男議員)



コースの各所で芝が傷んでいる

答

芝の張り替えは専門業者に委託しておらず、施工時期や方法については業者の判断を尊重し、相談しながら進めます。適切な時期に対応できるよう事業を進めていく。

(佐藤孝男議員)

●防災

生活基盤が安定し、安全安心に暮らせるまちづくり

問

福祉センターなどの公共施設における冷房設備整備について、災害時の避難場所としての役割も踏まえ、今後どのように対応していくのか。

(藤山大議員)

問

福島川の川底の堆積や流木による水害の危険性が心配される。町として国や道に対し、定期的な浚渫などの対応を働きかけてほしい。また、河口付近の砂利堆積や大きな流木が熊の隠れ場所になり不安との声がある。管理や対応はどうか。

(熊野茂夫議員)

答

近年の猛暑を受け、公共施設への冷房整備は必須と考えている。役場庁舎についても、職員の執務環境に加え、避難所としての役割もあるため、計画的な導入を検討する。ただし、財源の確保が必要。

今年度中に役場庁舎の冷房設備を整理し、来年度以降に公共施設全体の整備方針をまとめ、議会に相談していきたい。

川底や流木については町内会からも要望があり、道に対し計画的に対応を求めている。予算の都合で毎年は難しいが、数年ごとに工事が行われている。河口付近の状況については、管理者や所管を確認の上、危険性や対応の可否を検討する。



福島小学校6年生が議会の見学をしました（9/17決算審査特別委員会）

令和6年度各会計決算額

単位：千円

会計名		歳入	歳出	差引
一般会計		4,679,727	4,545,616	134,111
特別会計	国民健康保険特別会計	643,373	630,801	12,572
	介護保険	556,736	533,346	23,390
	特別会計	サービス事業勘定	1,318	1,318
	後期高齢者医療特別会計	76,539	76,490	49
	国民健康保険診療所特別会計	117,621	107,354	10,267
水道事業会計		収益的収支	104,962	100,918
		資本的収支	58,445	82,403
浄化槽事業会計		収益的収支	47,602	34,625
		資本的収支	26,510	36,237
計		6,312,833	6,149,108	163,725

※水道事業会計、浄化槽事業会計の資本的収支における不足額については、補填財源により補填されております。

令和6年度 議会費の使い道

前年度より775千円の減額

単位：千円

区分	令和5年度	令和6年度	主な使い道
報酬	24,447	25,917	議員歳費25,692、委員等報酬225
給料	13,425	14,883	事務局職員3名、会計年度任用職員1名
手当等	17,184	14,847	期末手当：議員11,326、職員3,521
共済費	12,088	12,542	議員7,112、職員5,430
報償費	0	0	専門的審査・調査謝金
旅費	1,920	1,378	委員費用弁償25、委員等旅費35、普通旅費505、視察研修旅費508、職員旅費160、同行旅費145
交際費	211	168	祝儀38、接待7、土産5、後援20、協賛金28、会費34、香典25、供花11
需用費	1,003	881	消耗品費44、追録代12、購読料32、食糧費5 議会だより印刷製本費788
使用料 賃借料	1,271	1,229	タブレット管理サービス使用料115、 議会インターネット中継回線利用料124、 ペーパーレス会議システム使用料990
負担金 交付金	1,102	1,112	管内議長会等369、四町議員協議会201、 議員公務災害補償組合負担金等62、政務活動費480
償還金 利子	1,081	0	科目廃止による皆減
合計	73,732	72,957	※事務局職員、会計年度任用職員の給料等は「職員給与費」に計上されており、議会費の決算額と一致しません。

住民の命を守るために ヒグマ緊急対策を可決！

定例会7月会議は7月18日に開会、議案3件を審議し、いずれも原案通り可決、同日付けで休会しました。参画者は12名でした。

町議会定例会
7月会議

詳しい資料はこちら



● 職員給与費
熊出没対応等における町内
パトロール等に係る時間外勤
務手当等の追加。

932
万2千円

● 熊等による被害対策費
熊出没対応等によるハン
ターの時間外勤務・活動報償
費等の増加による追加。

1千765万5千円

一般会計補正予算（第3・4号）

補正予算

区分	内容
物品名	業務用パソコン一式
方法	指名競争入札
金額	3,168万円
取得の相手方	北海道市町村備荒資金組合

財産の取得



山と住宅地の境界に設置された電気牧柵



町中の草やぶも刈り取り、ヒグマの潜伏を防止

単位：千円

会計名	補正額	補正後の予算総額
一般会計(第3号)	2,719	4,630,949
一般会計(第4号)	28,481	4,659,430

補正予算第3号、第4号の内、熊対策関係

- クマスプレー(30本) → 現場対応の安全強化
 - 草刈り委託経費
 - 草刈り機(5台)
 - ヘッドトリマ(2台)
 - 機器バッテリー(7台)
 - チェーンソー(2台)
 - 電気牧柵(1.5km) → 山と町の境界を守り、侵入を防止
 - 高所作業車等の借り上げ(2台) → 出没対応時の安全確保
 - 各種人件費(ハンター、職員、会計年度任用職員)
→夜間、休日のパトロール・出没対応等
- 町内や住宅地での見通し確保

各議案の審議結果

・賛成が○、反対は×、病欠は△、
欠席は欠と表示しています。
・溝部幸基議長は採決には加わりません。



9月会議採決の様子

会議名	議案番号	議案	議員名								審査結果
			藤山大	杉村志朗	佐藤孝男	小鹿昭義	平沼昌平	木村隆	熊野茂夫	平野隆雄	
7月会議 (7/18)	17	財産（業務用パソコン）の取得	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	18	令和7年度一般会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	19	令和7年度一般会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月会議 (9/16~18)	20	町の休日を定める条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	21	議会議員・長の選挙における選挙運動の公費負担条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	22	水道事業給水条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	23	第6次総合計画の変更	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	24	過疎地域持続的発展市町村計画の変更	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	25	北海道市町村総合事務組合規約の変更	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	26	北海道市町村職員退職手当組合規約の変更	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	27	北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	28	令和7年度一般会計補正予算（第5号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	29	令和7年度国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	30	令和7年度介護保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	31	令和7年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	32	令和7年度国民健康保険診療所特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	33	令和7年度浄化槽事業会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	34	令和7年度一般会計補正予算（第6号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	認定1	令和6年度一般会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	認定2	令和6年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	認定3	令和6年度介護保険特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	認定4	令和6年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	認定5	令和6年度国民健康保険診療所特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	認定6	令和6年度水道事業会計利益の処分・決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	認定7	令和6年度浄化槽事業会計利益の処分・決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	同意1	教育長の選任	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	同意2	教育委員会委員の任命	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	報告2	令和6年度財政健全化判断比率の報告	採決はありません								報告済
	報告3	令和6年度教育事務の管理、執行状況の点検・評価報告	採決はありません								報告済
	発委9	国土強靭化に資する社会資本整備等に関する意見書の提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	発委10	安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める意見書の提出	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	宣誓1	教育長の宣誓	採決はありません								宣誓済



調査事件 1 原石売払い

— 9月4日調査 —

売払い単価の妥当性が判断できる情報収集を

町は原石の売払いについて、契約の相手方より、採取期間満了に伴う期間延長の申し出があったことから、契約変更に向けて事務を進めています。新たな採取計画の内容と原石売払い単価等について、その内容を調査しました。

●算定根拠の再検証を

新たな原石の売払単価は、従来と同様に町の普通河川管理条例に定める産物採取料を基に算定しているが、単価を決める際には、市場価格等を十分に把握したうえで算定すべきと思慮する。

同条例は平成12年の制定以来改正されておらず、近年は実績も無いと推察されることから、現況の資材高騰等を考慮すると10年前と同額とした売払い単価が妥当なのか検証する必要があると思慮するが、資料では比較する数値が示されていないため、当該単価の妥当性が判断できないことから、改めて情報を収集し検討されたい。

●事業者との連携と支援を

前回調査で指摘した事項が検討されていない点を憂慮する。

前項の指摘を踏まえ、事業者が青函トンネル工事への資材提供をはじめ、町の経済に貢献してきた経緯と、急激な需要変動により採取量が大幅に減少している状況を考慮し適切な売払い単価を検討されたい。

採取地の境界は、松前町の町境まで30m程とのことであり、採取を進めるにあたっては業者と情報共有し、今後、関係機関と協議が必要となった場合には町として適切に支援し、支障なく対応されたい。

調査事件 2 町内体育施設の現状

— 10月21日調査 —

環境や利用状況に合わせた適正管理を

町の体育施設は、開設から25年以上経過し老朽化が進んでおり、施設の補修等を行いながら維持保全に努めているが、人口減少・少子高齢化により利用者の減少は避けられない状況にあり、その内容を調査しました。

●パークゴルフ場の管理

パークゴルフ場全体の芝も枯れている箇所が多く、適切に管理されているのか懸念される。近年の猛暑や水道料金などの経費が嵩む状況は理解するが、散水方法等を工夫し、十分な水が行き渡るように取り組むことを望む。

敷地通路やコース内に鹿等の糞が散乱しており、熊や鹿等の侵入防止対策として電気柵の設置等を検討されたい。

●市民プールの改修等

令和8年度以降に実施予定の採暖室の改修では、現状の材質に拘らず、プラスチックやコンクリートなど腐食に強い素材との交換を検討することも必要と思慮する。

プール施設の管理については、施設内だけでなく周辺も含めた施設全体について適切に維持管理されるよう望む。

※新緑公園ゲートボール場

体育施設ではないが、周辺フェンス等も倒壊の危険があることから、早急に利用団体の意向確認を行い、ゲートボール場のあり方も含め検討し、公園の適正管理に努められたい。



調査事件3 アワビ陸上養殖事業の進捗状況 — 8月22日調査 —

効率的な方式に転換し安定供給を

町は、アワビ陸上養殖事業で、北日本水産(株)のノウハウを活用し、より効率的な体制を構築することで事業の持続可能性と拡張性を高める取り組みを進めることとしており、その内容を調査しました。

●データ管理の見直しを

現在のアワビ種苗は、北海道栽培漁業振興公社と北日本水産(株)から購入しているが、資料では合算した数値となっている。両者で種苗のサイズや単価、斃死率等が異なることから、生産データは購入先別に分けて管理するべきと思慮するので検討されたい。

●販売基準の設定が必要

アワビの生育状況によって1kg当たりの個数が変動することは理解するが、サイズや価格が安定しなければ購入者の信頼を得られない。販売方法に一定の基準を設ける必要があると思慮するので検討されたい。

●早期に今後の方向性を

種苗購入先である北日本水産(株)の生産方式の効率性が高く、町も同社に3年間の調査委託をしているが、現行方式は事業開始から8年が経過し、収益改善が見込めないことはこれまでのデータから明白である。調査委託期間に拘らず、早期に今後の方向性を示すことが望ましいと思慮する。

また、同社は流通・販売にもノウハウを有していることから、養殖施設の管理も含めたアワビ陸上養殖事業の町指定管理先として企業誘致も含めた働きかけも必要と思慮するので検討されたい。

事業見直しの際は、これまで協力して頂いた水産アドバイザーや関係者の理解を得るよう、対応するべきと思慮する。

調査事件4 ナマコ種苗放流事業

— 8月22日調査 —

“ナマコのゆりかご”生残率向上が期待

町では、漁組からナマコの漁獲向上により漁業経営の安定と所得向上を図りたいとの強い要望を受け、漁港の静穏域を活用したナマコの育成調査を計画しており、その内容を調査しました。

●種苗放流の方法

ナマコの市場は、資源の枯渇等により高値で推移しているが、水産物輸出の国際的な障害も懸念されることから、取引状況等を注視し対応する必要があると思慮する。

今回の放流事業は以前の白符漁港での実施に加え30mm以下の種苗を「ナマコのゆりかご」で食害から保護する方法を用いており、より高い生残率が期待される。

事業に使用する種苗を公社から購入する説明の際に、今まで地元で採苗していたと認識していたが、現在は松前町から種苗を入れていることが確認され、町長も認識していなかった点を憂慮する。

漁組の業務を全て把握する必要は無いが、町はこれまでも施設整備・養殖推進に協力してきた経緯があることから、今後も漁組と情報を共有し、適宜、議会へも周知されるよう心掛けたい。



調査事件6 社会福祉協議会の運営状況

— 10月17日調査 —

■ 本来業務の取組み、発信の強化と介護事業協業化の検討を

社会福祉協議会の運営状況調査は、令和元年度に町と議会に支援要望書が提出されて以降、継続して調査しております。社会福祉協議会の令和6年度決算状況と今後の支援の在り方について、その内容を調査しました。

● 法人運営事業

社会福祉協議会の本来業務への取り組み内容を積極的に発信しなければ町民はその役割を知らないことが危惧されるので、現状の体制を検証し町と情報共有する必要があると思慮するので検討されたい。

● 介護保険事業

決算状況から介護事業で特に居宅介護支援事業が運営のネックであり、町内人口が減少する中で支援対象者も減少することが推察され、このままでは町内2事業所も含め経営が立ち行かなくなることも憂慮される。以前から町が主導し町内

3事業者で協議の場を持ち、事業の棲み分け・協業化の検討を早急に協議されることを望む。

● 総括意見

介護保険事業の収支の改善を図るため、町内の居宅介護を必要とする方に積極的に対応する営業に取り組む努力をするべきであると思慮する。

※社会福祉協議会の本来業務への取り組みとは：生活困窮者への支援、防災の対応等。

調査事件7 ゴミ減量化対策の進捗状況

— 10月17日調査 —

■ 1人あたりのゴミ処理負担金渡島1位返上へ

ごみ減量化対策については継続して調査を行っており、令和6年度のごみ処理量の推移と、ごみ減量化対策の進捗状況等について、その内容を調査しました。

● 電動生ゴミ処理機のPR

町も広報等によるPRを行っているが、町民からは「存在を知らない」、「どこで買えるのか」、「処理した生ごみの処理方法がわからない」などの声も多く、町民に十分認知されていない点を指摘する。より積極的に各町内会の役員会やごみ減量化推進委員会議等で実物の効果を見てもらうほうが理解しやすいと思慮するので検討されたい。

※4Rとは：リフューズ（ゴミの発生源を断つ）、リデュース（ゴミの排出を抑える）、リユース（繰り返し使用する）、リサイクル（資源として再利用する）の総称。

● ごみ分別の意識付け

減量化が進まない要因は、ごみの分別も含めた4Rの取り組み認知度が低いことにあると考えられる。従来の周知方法では、町民への意識付けが進まないことは明白であり、現況を開拓するには、実際に町から出されたごみ処理の実態を町民に見てももらうことも有効と考えるので、学校単位や町内会等で衛生センターの処理現場見学を検討されたい。

人口1人あたりのごみ処理負担金渡島1位が続いている不名誉を返上できるよう、分別への意識づけを徹底されたい。



調査事件2・5 第6次総合計画の変更

— 10月2日調査 —

第6次総合計画の変更内容を確認

町は、定例会9月会議において議決された第6次総合計画「前期実施計画」について、令和7年度ローリング作業に伴い、事業内容に変更が生じたため、両常任委員会では連合審査会としてその内容を調査しました。

●がん検診受診拡大を提案

町が進めるがん検診推進事業については、受診者の固定化と新規受診者の伸び悩みが懸念される。町では広報や講演会を通じて周知しているが、**新規受診者を増やすためには、実際に検診を受けて早期発見に繋がった現実的なデータを見せることも有効**と思慮するので検討されたい。

●事業費増と財源確保を懸念

今回の総合計画変更の主な要因は、人件費や物価の高騰による事業費の増額であり、消火栓設置事業では、47%以上の増額となっている。

建築・土木工事費などの高騰が続く中、財源の確保は相当厳しくなると想定される。他自治体も同様の状況であり、過疎債や補助金等の枠確保も困難が予想されることから、国や道の情報収集を徹底し、個別事業だけでなく**総合計画全体を早急に精査する必要がある**と思慮するので検討されたい。

資料説明が簡略すぎるため、今後はより丁寧な説明を求める。



あなたの一枚を
投稿してみませんか？

★詳しくは議会事務局までお問合せください。(0139-47-2215)

●締切

2月号掲載分…令和8年1月6日(火)



あなたの声をきかせてください。

●アクセス方法

スマートフォンから簡単アクセス！

こちらの二次
元バーコード
をご利用いた
だけません

◀ ちょっとしたスキマ
時間に、ポチッと
どうぞ。



調査事件

議会体制のあり方、議員のなり手確保対策等 議会改革について

議会体制のあり方、議員のなり手確保対策等議会改革について、令和9年8月の改選期に向け、検討を進めています。

7月18日、10月2日に開催された委員会での状況を報告します。

第4回会議

— 7月18日調査 —

議員一人ひとりの考え方を再確認

●全議員アンケート実施

一次産業繁忙期の会議への出席免除など議会として受け入れ態勢を整備する必要があるのではという意見があったが、まずは定数を決めることが大事ではないかとの意見もあり、再度議員の考え方を整理するためにアンケートを実施し、意見を集約した上で協議することとした。

● 諒問委員追加公募の状況

6月19日から募集していた公募委員については、議員の呼びかけにより2名の応募があり、残り1名については更に各議員が声掛けを行うこととした。

※11月14日現在：2名に委嘱済、残り1名募集継続中。

第5回会議

— 10月2日調査 —

議員定数、歳費など、特別委員会としての方向性を確認

●議員定数

- ・10名→9名（1名減）。

現状維持とする意見や、8名以下といった意見もあったが、最終的にはもっとも意見の多い定数を9名とする方向で確認した。

●議員歳費

- ・福島町方式を継続。

算定根拠を明確に示すものとして現行の「福島町方式」を採用し現在に至っており、令和5年の改選後からは比較対象とする給与を「町長・副町長・教育長」の月額平均から「町長」単独とし、歳費を増額している。更なる増額の意見もあったが、特別委員会としては「福島町方式」を継続していく方向で確認した。

●議員のなり手対策

- ・倫理条例にハラスメント条項追加。

ハラスメント条例の制定については、該当する事例が発生してからでは遅いとの意見もあったが、条例は制定せず、議員政治倫理条例にハラスメントの条項を追加し、整理することを確認した。

●議会改革の見直し

- ・2つの常任委員会を1つに統合。

現在の2常任委員会を1常任委員会とする意見が多く、特別委員会としては、1常任委員会とする方向で確認したが、1常任委員会とした場合の具体的な運用については引き続き議論を進めることとした。政治倫理条例はハラスメント条項を追加するために改正することを確認した。

※ 2つの委員会：総務教育常任委員会、経済福祉常任委員会。

特別委員会で審議し議会としての方向性をまとめ、令和8年2月開催予定の「町民と議員との懇談会」で町民の皆さんにご説明し、ご意見をいただく予定です。

研修レポート

渡島西部四町議会議員連絡協議会視察研修

令和7年7月29日(火) 余市郡赤井川村、古宇郡神恵内村にて、渡島西部四町議会議員連絡協議会として視察研修を行いました。当町からは3名の議員が参加しました。

目的 地域公共交通について

視察先 余市郡赤井川村役場
古宇郡神恵内村役場



赤井川村議会議場にて

議会広報研修会

令和7年8月19日(火) 札幌市で北海道町村議長会主催の議会広報研修会が開催され、議員2名が参加しました。

講演

議会の『見える化』&住民との『信頼築く』
議会広報の基本と編集

講師 議会広報サポーター 芳野 政明 氏



講師を務めた芳野政明氏

渡島・檜山管内市町議会議員研修会

令和7年10月9日(木) 北斗市で渡島・檜山管内市町議会議員研修会が開催され、議員9名が参加しました。

講演①

調査船が明らかにする道南沖スルメイカの来遊実態

講師 函館水産試験場 調査研究部 研究職員 富山 嶺 氏

講演②

「対話する議会・議員」を目指して～「SOUNDカード」を活用した、住民との意見交換会、議員間討議～

講師 青森大学 社会学部コミュニティ 教授 佐藤 敦 氏



講師を務めた富山嶺氏(左)、佐藤敦氏(右)

議会による 行政評価

町では、「まちづくり基本条例」に基づき行政活動を点検し、改善を図るため、令和6年度一般会計決算による行政評価（事務事業評価）を実施し、「議会基本条例」第10条の規定による決算説明資料として議会に提出しています。

議会では、「議会行政事務事業評価要綱」を定め、各事務事業について議会側の評価を示し、議会としてのチェック機能を強化し、翌年度予算へ反映させることとしています。

議会の行政評価結果の概要

10月31日に総務教育常任委員会、経済福祉常任委員会で議員提出の全71事務事業評価を調整し、議会評価を決定、町へ手

交しました。各委員会別の評価結果は次のとおりです。

◎→十分評価できる
△→やや不足している
○→概ね評価できる
▲→不足している

	◎	○	△	▲	計
総務教育	1	35	2	0	38
経済福祉	1	30	2	0	33
計	2	65	4	0	71

来年度の評価に向けて (両委員会共通)

評価は、項目別点数による評価による現状把握が基本であり、一・二次評価で安易に評価をあげるべきではなく、改善策を対策として示す評価方式であり、現在の予算重視の評価方法では、適切な評価とならない項目も見受けられるため、評価シートの見直しを始めとした事業重視の評価方法に変更する等、評価方法全般の改善を検討されたい。

シート記載文の誤りがあり、起案・決裁における確認・校正を徹底されたい。

活動指標・成果指標における数値については、要因を加味し検討されたい。

番号	事務事業	内 容	町評価	議会評価	説 明
1	情報公開	議会だより発行など	A	◎	引き続き更なる工夫を期待する。
2	職員研修	研修計画に基づき職員研修を実施	A	○	知識・接遇・専門的研修等の質的向上と関係機関への研修参加を検討されたい。
3	車輌管理	公用車両の適正管理	A	○	引き続き各車両の適切な管理と運用を進め、事故防止の指導徹底に努められたい。
4	交通安全対策	町民へ交通安全啓発	A	○	指導員の高齢化に対処する体制づくりと、啓発の工夫を図られたい。
5	町民運動対策	青少年問題協議会の開催など	A	○	LINE等によるいじめや、犯罪・非行防止のための情報発信に努められたい。
6	インターネット事業	役場内外のインターネット環境維持保全	A	○	引き続きセキュリティ対策に努め、利用拡大の取り組みを期待する。
7	ホームページ管理	ホームページを運用し行政情報を発信	A	△	統計資料等や行政情報を日々発信する等抜本的な対策を図られたい。
8	生活館等管理	町内会館の適正な維持管理	A	○	公共施設維持保全計画基本方針に基づく維持管理・有効活用を期待する。
9	災害対策	防災機器整備など	A	○	戸別受信機の良好な状態を保つため継続的なメンテナンスが必要。
10	町内会連合会助成	同連合会の活動支援	A	○	住民参加を目指した住民活動の統一的な組織展開を検討されたい。
11	文書広報	町広報誌の発行	A	○	今後も分かりやすい広報誌発行と、ちらし集約化の検討を。
12	ふるさと応援基金運営	ふるさと納税募集と、寄付者への返礼品贈呈	A	○	ふるさと納税寄付者の取り込みを更に進められたい。
13	産業活性化サポート事業	地場産品を活用した新商品開発への助成など	A	○	新商品開発のため、専門指導者や関係機関等の活用についても支援されたい。
14	バス待合所管理	バス待合所の維持管理	A	○	今後も利用者にとって快適な施設の維持管理を期待する。
15	戦没者追悼式事業	追悼式典の実施	A	○	全町民を参加対象とした新たな展開を期待する。
16	社会福祉	社会福祉団体への支援	A	○	社協の財政健全化に向けた自助努力を進め、社会福祉業務を適切に執行されたい。
17	高齢者行事	敬老会の開催	A	○	参加者減の要因を分析し、行事内容、参加方法を検討されたい。
18	住宅福祉事業	老人クラブ連合会への支援	A	○	老人クラブの活発な活動を期待する。

番号	事務事業	内 容	町評価	議会評価	説 明
19	吉岡総合センター管理運営	同センターの維持管理	A	○	利用者のニーズに合った適切な管理運営に努められたい。
20	学童保育	授業終了後の学童保育	A	○	保育体制を確保し、教育委員会と連携した特色ある運営を期待する。
21	ごみ減量化対策	生ごみの自家処理機購入に対する助成	B	△	生活様式の改善を徹底指導する検討を。(4Rの周知徹底)
22	保育所	認定こども園福島保育所の運営	A	○	町の宝である子供たちを町ぐるみで育てていく取組の工夫を。
23	福祉車両等購入事業助成	町内の社会福祉法人の福祉車両購入に対する助成	A	○	有効に活用されたい。
24	社会福祉総務	寝たきり老人等在宅介護手当の支給など	A	○	現在の社会状況を鑑み、手当額の増額を検討願いたい。
25	重度心身障がい者等タクシー料金助成事業	通院するためのタクシー料金を一部助成	A	○	利用率低迷の要因をしっかり分析し、適切に執行されたい。
26	老人福祉	希望者へ緊急通報システム機器を設置	B	○	システムの必要性は理解するが、他の福祉事業との統合を検討すべき。
27	健康づくり推進	健康フェスティバルの開催等による町民の健康増進	A	○	日常生活の中で健康意識の醸成を促す活動に力点を置かれたい。
28	医療対策(保健衛生総務)	保健師等に対して修学資金貸付など	B	○	毎年度貸付実績がないため、要因を分析し、対応を検討すべき。
29	いきいき健康ふくしま21推進事業	健康カレンダーの作成、運動教室等の開催	A	○	内容の充実を図りながら、今後も継続されたい。
30	医療対策(医療対策)	日曜当番医制による町民健康保持など	A	○	広域的な取り組みを進められたい。
31	老人保健	リハビリ教室などの実施	A	○	町立診療所と連携した在宅リハビリを充実させなければならない。
32	温泉健康保養センター管理運営	吉岡温泉の管理運営	A	○	町外への情報発信、周辺環境の整備など、利用度を上げる施策を検討すべき。
33	多面的機能支払交付金事業	地域活動組織への活動経費交付	A	○	地域活動組織と連携し、円滑な事業展開を期待する。
34	活性化センター管理運営	同施設(あづま～る)の維持管理	A	○	地域文化の活動拠点としての活用と、町内外への情報発信を期待する。
35	熊等による被害対策	有害鳥獣の被害防止と危険個所の巡回	A	○	有害鳥獣処理施設の運用、受け入れ態勢等広域を含めた有効活用を検討されたい。
36	利子補給事業	漁業者の貸付に対する利子補給	A	○	関係機関と連携し、円滑に事務を進められたい。

番号	事務事業	内 容	町評価	議会評価	説 明
37	水産加工振興協議会補助	同協議会の運営補助	A	○	基幹産業を支援する要請活動を強力に進めるとともに、外国人従業員の確保体制を検討すべき。
38	水産多面的機能発揮対策事業	水産業多面的機能を発揮させる活動組織支援	A	○	活動組織と連携し、円滑な事業展開を期待する。
39	漁村環境改善総合センター運営	福島・吉岡にある同施設の管理運営	B	△	福島については、現状維持に努め、吉岡の施設は早急に解体すべき。
40	製氷貯氷施設運営	漁業業者等への安価かつ良質な氷の安定供給	A	○	有効な活用を期待する。
41	労働者支援	職業紹介等の労働支援	A	○	効果的な事業の改善、新規事業の工夫を期待する。
42	観光振興	プロモーションやイベントでのPR事業など	A	○	関係機関との役割分担を明確にし、協力体制を確認すべき。
43	岩部海岸わくわくクルーズ事業	岩部クルーズの管理運営	A	○	安全運航に留意し、健全に運営されたい。
44	道の駅管理	道の駅の管理運営	A	○	内容充実が図られており、道の駅としての評価が高まっている。更なる努力を期待する。
45	横綱記念館管理運営	同施設の管理運営	A	○	貴重な資料を無駄にすることなく両横綱の偉業を顕彰していただきたい。
46	青函トンネル記念館管理運営	同施設の管理運営	A	○	第2青函トンネル構想の情報発信不足。積極的に取り組む姿勢が必要。
47	街灯料助成事業	街路灯設置・街灯料の助成	A	◎	他の公共施設等のLED化も期待する。
48	教育関係団体・大会参加助成	同団体や児童生徒の大会参加費用の助成	A	○	物価高騰の影響等も十分配慮し、助成事務を執行されたい。
49	高校魅力化推進事業	入学時の奨励金や検定受験等の助成ほか	A	○	高校と連携の上、魅力ある学校づくりに邁進されたい。
50	青少年交流センター整備事業	同センターの整備	A	○	適切な生活指導と施設管理を望む。イベント等による町民との交流を推進されたい。
51	ALT招致	英語指導助手2名招致	A	○	引き続き英語教育の充実に努力されたい。
52	児童生徒輸送	児童生徒の通学・行事・大会参加等への輸送	A	○	安全に留意し、現状の児童生徒送迎等を維持されたい。
53	奨学資金貸付	経済的理由で就学困難な学生へ奨学資金貸付	A	○	国の動向を見ながら、給付型奨学金の検討を進められたい。
54	教育用コンピュータ等整備事業	児童生徒へのタブレット等の整備など	A	○	タブレット等の更なる有効活用を図られたい。

番号	事務事業	内 容	町評価	議会評価	説 明
55	教員住宅管理	教員の生活拠点となる住環境の整備・管理	A	○	引き続き適切な維持管理に努められたい。
56	小学校管理	小学校の適正な管理運営など	A	○	児童が快適な環境で学習できるよう施設の長寿命化等に努められたい。
57	中学校管理	中学校の適正な管理運営など	A	○	生徒が快適な環境で学習できるよう施設の長寿命化等に努められたい。
58	学校給食センター	児童・生徒への学校給食の充実	A	○	米等の地元食材の活用拡大に更なる努力を求める。
59	社会教育総務	社会教育委員会議、スポーツ、講座など	A	○	社会教育の現状を把握し、指導体制の確立と活発な事業展開を期待する。
60	読書活動	福祉センター内図書室の運営	A	○	図書管理システムの有効活用と図書司書の配置を期待する。
61	成人教育	各種講座の開催など	A	○	引き続き住民ニーズを把握し、リーダー養成に努められたい。
62	青年教育	成人式の開催など	A	○	式典の在り方の検討を進めるとともに、青年教育の新たな展開を期待する。
63	少年教育	青少年主張大会、学生対象の講座開催など	A	○	福島学ジュニアなど、新しい事業も取り入れているが、更に積極的な展開を期待する。
64	芸術・文化	芸術鑑賞事業、町民文化祭主催の文化団体協議会へ助成	A	○	新たな展開を期待する。
65	友好市町交流事業	長野県木曽町、長崎県松浦市との学生交流	A	○	三市町交流事業を推進すると共に、新たな地域との交流の展開を期待する。
66	文化財保護	歴史講座開催、埋蔵文化財の保存と啓蒙など	A	○	学芸員を活用した専門的な文化財保護活動を期待する。
67	保健体育総務	各種社会体育事業の開催など	A	○	保健体育の現状を把握し、指導体制の確立と活発な事業展開を期待する。
68	総合体育館運営	同施設の維持管理	A	○	利用者の視点に立った維持管理に努められたい。
69	町民プール運営	同施設の維持管理	A	○	適切な管理、有効活用を進められたい。
70	ファミリースポーツ公園管理	同施設の維持管理	B	△	利用者が減少する中、児童生徒等の利用を促進する等利用拡大を検討されたい。
71	福祉センター運営	同施設の維持管理運営	A	○	施設の適切な維持管理に努められたい。

会議等出席状況

会議や議会へ通知があった行事等の7月19日から11月14日までの出席状況をお知らせします。
 「○」は出席、「×」は欠席、「-」は出席不要・任意、「◎」は委員外議員として出席、「△」は別公務・病欠のため、「職」は正副議長の職務出席を表しています。

年月日	会議・行事名	藤山	杉村	佐藤	小鹿	平沼	木村	熊野	平野	溝部
7/29	渡島西部四町議員連絡協議会視察研修（赤井川村、神恵内村）	○	○	-	-	-	-	-	○	-
8/4	道南地区林活連絡協議会現地研修会（厚沢部町）	○	-	○	-	-	-	○	-	-
13	二十歳を祝う会	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	全道議会広報研修会	○	-	-	-	-	○	-	-	-
21	渡島檜山管内議会議長連絡会議（木古内町）	-	-	-	-	-	-	-	-	○
22	経済福祉常任委員会（アワビ、ナマコ）	◎	-	○	○	○	○	◎	○	○
26	第1回議会諮詢会議	○	-	-	-	○	-	○	○	○
29	岩手県滝沢市議会視察受入	-	-	-	-	○	-	-	○	○
9/4	経済福祉常任委員会（意見書、9月会議後の調査）	-	-	○	○	○	-	-	○	○
	総務教育常任委員会（原石売払い・意見書、9月会議後の調査）	○	○	◎	◎	-	○	○	○	○
	令和7年度第2青函トンネル構想を実現する会総会	○	-	○	○	○	-	-	-	○
5	渡島西部広域事務組合第2回定期会	-	-	○	-	-	○	-	-	○
6	福島商業高校オープンキャンパス	○	-	○	○	-	-	○	○	○
8	正副議長議案説明	-	-	-	-	-	-	-	○	○
9	一般質問通告	-	-	○	-	○	○	○	○	職
	議会運営委員会（9月会議の運営）	○	-	○	-	○	○	○	○	職
12	商工会要望	-	-	-	-	-	-	-	-	○
	議員勉強会	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13-14	福島大神宮例大祭	○	-	-	-	-	-	○	-	-
16-17	定例会9月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17-18	決算審査特別委員会（17日福島小学校6年生見学受入）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	定例会9月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議会運営委員会（9月会議の反省）	○	-	○	-	○	○	○	○	職
	議員会定期総会、森林・林業・林産業活性化議員連盟定期総会	○	-	○	○	○	○	○	○	○
20	福島幼稚園運動会	○	-	-	-	-	-	-	-	○
21	FOOD STADIUM 2025	○	○	○	-	○	○	-	○	○
22	交通安全町民大会・安全祈願祭	-	-	-	-	○	-	-	-	○
25	総務教育常任委員会報告書手交（原石売払い）	○	-	-	-	-	-	-	○	○
26	福島中学校藝術祭	○	-	○	○	-	-	-	-	○
28	第28普通科連隊創立63周年・駐屯地開庁75周年記念行事（函館市）	-	-	-	-	-	-	-	-	○
10/2	総務教育・経済福祉常任委員会連合審査会（第6次総合計画変更）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議会改革調査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	職
	9	渡島・檜山管内市町議会議員研修会（北斗市）	○	○	○	○	○	○	○	○
14	常任委員会連合審査会報告書手交（第6次総合計画変更）	○	-	○	-	-	-	-	○	○
	渡島廃棄物処理広域連合議会運営委員会（北斗市）	-	-	-	-	-	-	-	○	-
15	第2回議会諮詢会議	○	-	-	-	○	-	○	×	○
17	経済福祉常任委員会（社会福祉協議会、ゴミ減量化）	-	-	○	○	○	-	◎	○	○
	福島小学校学習発表会	-	-	-	-	-	○	-	-	-
21	スルメイカ漁獲可能量(TAC)の更なる増枠に関する要望（東京都）	-	-	-	-	-	-	-	-	○
	総務教育常任委員会（体育施設）	○	○	○	○	-	○	○	○	△
23	議員と北日本水産㈱社長との懇談会	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	吉岡小学校学習発表会	○	-	-	-	○	○	-	-	○
25	洋上風力ビジネスフォーラム（函館市）	○	-	-	-	○	-	-	-	○
27	渡島廃棄物処理広域連合第2回定期会（北斗市）	-	-	-	-	○	-	-	○	-
29	町村合併70周年記念式典	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	厚岸郡厚岸町視察受入	-	-	-	-	-	-	-	-	○
11/1	札幌福島会総会（札幌市）	-	-	-	-	-	-	-	-	○
3	向山じゅん秋のセミナー（函館市）	-	-	-	-	○	-	-	-	○
4	福島県大熊町視察受入	-	-	-	-	○	-	-	△	○
5	経済福祉常任委員会報告書手交（社会福祉協議会、ゴミ減量化）	-	-	○	-	-	-	-	△	○
7	総務教育常任委員会（町内視察、執行方針）	○	○	-	◎	-	○	○	△	○
	総務教育常任委員会報告書手交（体育施設）	○	-	-	-	-	-	-	△	○
8-9	町民文化祭	-	○	○	○	-	○	-	-	○
	木育キャラバンinふくしま	-	-	-	○	-	○	-	-	○
10	経済福祉常任委員会（町内視察、執行方針）	-	-	○	○	○	○	○	○	○
	商工会・観光協会要望	-	-	-	-	-	-	-	-	○
12	全国議長大会（東京都）	-	-	-	-	-	-	-	-	○
14	議会運営委員会（議会だより）	○	-	○	-	○	○	○	○	職
	総務教育常任委員会報告書手交、経済福祉常任委員会報告書手交（行政評価・事務事業評価）	○	-	○	-	-	-	-	○	○

23 福島町議会だより

- 第148号 令和7年12月1日発行 -

町民の声

一人の僧侶として、一人の町民として思う「良い町」



議会諮詢委員
清水 紘太

海福寺副住職を務めておりま
す、清水紘太と申します。
一人の僧侶として、一人の町
民として思う「良い町」とは、
人々が安心して心穏やかに暮ら
せる町です。
物質的な豊かさだけでなく、
互いに支え合う人間関係や、命
や自然への感謝が息づく文化が
大切です。
朝には挨拶が交わされ、困っ
ている人には手が差し伸べられ
る。誰もが立ち寄れる「心のよ
りどころ」が町の中に点在し、
世代や立場を超えて交流できる
場がある。

経済の発展だけでなく、環境
や歴史も大切に守られ、子ども
から高齢者まで、誰もが居場所
を感じられる。
争いよりも対話を重んじ、日々
の暮らしの中に小さな喜びと感
謝を見いだせる町。
それが私の思う「良い町」です。

議員の雑感

思いでに残る祭り



総務教育常任委員長
藤山 大

7月に発生したヒグマ事故に
より被害に遭われた方のご冥福
を心よりお祈りいたします。ヒ
グマの発生が続き、行事、イベ
ントが中止、外出が制限され、
町民の皆さまにおかれましては
大変不便な思いをされたことと
思いますが、ヒグマ警報明けに
行われた福島大神宮例大祭で
は、格調高い伝統の四ヶ散米行
列と奴行列が同時に披露されま
した。舞いを中学生、高校生に
伝承し、町民の方々にお披露目
できた事は大変喜ばしいと感じ
ました。指導に当たった役場職
員や関係者の方々には大変感謝
しております。山車の方も、町
外から大変多くの参加があり、
今年一番の行事に感動を受け、
思い出に残る祭りとなりま
した。貴重な伝統が後世に継承さ
れることを願っております。

主な会議・行事予定

● 12月

議会運営委員会（12月会議の運営）
1日(月) 午前9時20分() 委員会室

● 定例会12月会議
1日(月) 午前10時() 議会議場

● 経済福祉常任委員会
1日(月) 定例会12月会議終了後
(少年体育連盟との懇談会) 議会議場

● 広報広聴常任委員会
1日(月) 午後6時() 議員控室

● 渡島西部広域事務組合第3回定例会
5日(金) 午後3時() 議員控室

● 一般質問通告
9日(火) 午前10時～午後2時
議会事務局

● 議会運営委員会(12月第2回会議の運営)
9日(火) 午後3時() 議会議場

● 議員勉強会
12日(金) 午後1時30分() 委員会室

● 定例会12月第2回会議
16日(火) 午前10時() 議員控室

● 第3回諮詢会議
18日(木) 午後6時() 議会議場

● 御用納め
26日(金) 5日(月)

編集後記



北方領土返還要求運動
シンボル「千島桜」

今年は6月から真夏のよう
な暑さとなり、7月以降も異常な
猛暑が続きました。野ネズミの
大量発生や、熊による痛ましい
事故、さらには津波警報が発表
されるなど、自然の驚異を改め
て感じる年でした。
一方で、福島町は町制施行70
周年という節目を迎えました。
この町で暮らす私たち一人ひと
りが、安全で安心できる地域(町)
を作っていく、その責任を実感
させられる年でもありました。
寒さが本格化します。暖かく
お過ごしください。
・・・・・

2月発行の「議会だよりふく
しま」では、定例会12月会議を
中心に紹介する予定です。